発達障害の早期発見・早期療育に関する研究
（分担研究：発達的な観点から見た療育指導の在り方に関する研究）

白瀧　貞昭

要約：発達障害の早期発見のためには、日本で制度化されている１歳半健診が有効であるが、自閉症を中心とする広汎性発達障害、言語障害などの特異的発達障害、および知的障害などの早期発見を目標としてどのようにチェック項目を設定するのが良いのかについて、今年度は主として文献的考察を行った。その結果、従来からの運動、言語（理解、表出）、情緒、神経などの発達チェック項目以外に、社会性の障害が初期から出現することが明らかになり、この障害を早期に把握する手段として、母子愛着関係の発達についてチェック項目を設定しておくことが必要であるとの提案を行った。

見出し語：発達障害、母子関係、１歳半健診

研究方法：発達障害（ここでは特に、自閉症などの広汎性発達障害、言語障害などの特異的発達障害、および知的障害などに限定しているが）の早期発見を可能にするための一つの方法として、１歳半健診を有効に使うべく、どのようなチェック項目を選定するのが良いのかを検討することを本年度の目的とした。そのためにすでに報告されている諸文献を参考にして、文献的考察を行った。

結　果：１）Baron-Cohen ら（１９９２）は「自閉症児を１歳半時に発見することが出来か」と題する論文の中で、自閉症の発達初期の特徴として以下の領域での障害が特徴的であると述べている。すなわち、①ごっこ遊びの欠如、②叙述的指差しの欠如、③社会的興味の欠如、④社会的遊びの欠如、⑤共同注視の欠如、の五つである。そこで、１歳半時に親にチェックしてもらう項目として、①振り回してもらって喜ぶか否か、②他の子供に興味を示すか否か、③階段を上ったりすることに興味を示すか否か、④イナイナイバーやかくれんぼ遊びを喜ぶか否か、⑤ままごとなどのごっこあそびをするか否か、⑥要求の指さしをするか否か、⑦叙述の指さしをするか否か、⑧ミニチュアカーをそれらしく遊ぶか否か、⑨何かを親と一

神戸大学医学部精神神経科（Dept. of Neuropsychiatry, Kobe Universsity School of Medicine）

緒に見てと持ってくることがあるか否か、を挙げている。さらに、健診者が直接観察して確かめるべき項目として、次の4項目を挙げている。①健診者と目を合わせるか否か、②こちらの指さす方向を見ることが出来るか否か、③ままごと遊びに一緒に参加できるか否か、④積み木ブロックで何段かの塔を作れるか否か。

これらの項目をチェックして、初めに述べた五つの領域での障害のうち、二つあるいはそれ以上の障害が認められたとき、その児は2歳半以降で自閉症と診断される確立が非常に高かったと結論している。

2）白瀧ら（1994）は①1歳半健診で有意味語の出現のないこと、②大人への関心を示さないなどの社会性の障害があること、③一つの玩具などを固執的に持ち続ける、生活習慣上に固執性が認められるなどの同一性への固執の徴候があること、の三つを併せ持つ児を広汎性発達障害のリスク児として、以後のフォローの対象とした。そして、これらの児の母親との間の愛着関係の確立の様子を愛着行動を観察することによって評価した（エインズワースの提唱した新奇場面法を用いて）。その結果、予測されたように母親の存在に対してもほとんど無頓着な（部屋からの母親の入退出の両方に）児のパターンともう一つ、逆に非常に激しい情動的表出を伴うパターンの二つがあることを観察した。これらの児が3歳になるまでフォローされ、その後の状態が検討されたが、全体の三分の二は自閉症と診断され、残りの三分の一が言語障害を示す特異的発達障害と知的障害と診断された。すなわち、1歳半時のチェック項目として、母子愛着関係の評価は発達障害の予後予測のために非常に有効な項目であることを明らかにした。

考　察：日本で行われているすべての幼児に対する1歳半健診は障害の早期発見（さらには早期療育）のために非常に有効な制度であることは多くの人の認めるところである。この1歳半健診の場で言語発達、社会性発達（対人発達）、情緒発達、運動発達、などの発達のチェックが行われているのであるが、この中で従来、割合、取り上げられていないのが社会性の障害を1歳半という発達の早い時期にいかに検出するかということである。

社会性の発達の基礎が何よりも出生後の1年間で形成される母子関係にあることは間違いないので、この母子関係の発達の様相を知ることが後の社会性の発達について知ることにもなるし、しかも、発達的にもより早期にその発達について評価できることになる。その意味で、今回の検討で1歳半時において母子関係の発達（換言すれば、母子愛着関係の発達）を発達のチェック項目として是非、加えておくべきことを強く感じた。そこで、このチェック項目が1歳半健診の場で出来るだけ考慮されるよう要請したい。

文　献：

1）Baron-Cohen S, Allen J, Gillberg C : Can autism be detected at 18 months? : The needle, the haystack and the CHAT. Br J Psychiatry 161 : 839-843, 1992

2）白瀧貞昭、平　玲子、柏木宏介ら：自閉症初期徴候としての母子関係障害。厚生省精神・神経疾患研究委託費」平成５年度研究報告書、PP 13-17、１９９４

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

要約:発達障害の早期発見のためには、日本で制度化されている 1 歳半健診が有効であるが、自閉症を中心とする広汎性発達障害、言語障害などの特異的発達障害、および知的障害などの早期発見を目標としてどのようにチェック項目を設定するのが良いのかについて、今年度は主として文献的考察を行った。その結果、従来からの運動、言語(理解、表出)、情緒、神経などの発達チェック項目以外に、社会性の障害が初期から出現することが明らかになり、この障害を早期に把握する手段として、母子愛着関係の発達についてチェック項目を設定しておくことが必要であるとの提案を行った。